別紙

令和８年度校区まちづくり交付金　交付決定助言書
【山本小学校区まちづくり協議会】

〔交付決定にかかる条件〕

※下記に記載の〔交付決定にかかる条件〕については、年度内の活動の中で実践や実施に向けた検討を進めてください。その実績や検討状況については、実績報告書に記載いただき、ご報告ください。

〇チャレンジメニュー②：4-④自主財源確保の仕組み導入

・クラウドファンディングの実施にあたっては、目標設定額や目標に達した場合の資金の使途について、具体的にご検討ください。

〇チャレンジメニュー③：1-①「自助」の取り組みの定着・促進

・さらなる自助の定着にむけて、年に１回のイベント以外にも、通年で実施できる啓発活動についてもご検討ください。

〇チャレンジメニュー④：1-②子どもの参画

・無事旗の掲揚とあわせて、家庭内でも災害訓練の意識を親子で考えてもらえるように、考えるきっかけとなるワークシートの配布や、翌日の学校での「参加しましたか？」という声かけの実施など、学校との連携を図る手法についてご検討ください。
・取り組みの毎年度の効果検証の実施についてご検討ください。

〇チャレンジメニュー⑥：3-②ICT 人材の発掘・育成

・新たな人材の発掘にあたっては、協力団体からの発掘と合わせて、広く校区住民全体に対しても募集を行うなど、より多くの住民が参加しやすい環境づくりについてご検討ください。また、若い担い手とあわせて、現在の役員等の担い手からの ICT 人材の発掘・育成についてもご検討ください。

〇チャレンジメニュー⑦：3-③若い担い手確保・参画促進

・山本高校のボランティアとの連携は非常に有意義です。ボランティアとして参加した高校生からの意見を聴取し、その結果を次年度以降の取り組み改善に活かすことをご検討ください。
・取り組みの継続のためには、先生方との連携が重要です。先生方との協力体制を維持し、継続的な取り組みとなるようご検討ください。
・高校の「探求学習・総合的な探求の時間」と連携し、まち協側がテーマなどを示すことで、取り組みのより一層の充実を図る手法についてもご検討ください。

〇取り組み②：玉串川さくらフェスティバル

・「令和８年度市民活動支援基金事業助成金」の２次募集で採択された「クビアカツヤカミキリ

の駆除・活用と被害についての啓発」を展開している団体との連携についてもご検討ください。

〇取り組み⑦：広報活動
・若い世代においては、Instagram と並んで X の利用者数も多いので、年代別ユーザー数も参考にしながら、ターゲットとする年代ごとの利用媒体の活用についてもご検討ください。
・インスタグラムなどを用いた若年層へのまちづくり協議会への参画促進について、他地区事例などを参考にしながら、具体的な展開方法についてご検討ください。

〔今後の活動にかかる助言〕

※下記に記載の〔今後の活動にかかる助言〕については、まち協活動でご活用ください。こちらの項目については、実績報告の際の実施状況等のご報告は不要です。

〇チャレンジメニュー①：4-③まち協構成団体以外の主体との連携
・経費のかかる青パト車を他のまち協とシェアし、情報交換するのはとても良い取り組みだと思います。今後についても、引き続き継続して実施してください。

＜全体を通して＞
〇広報媒体について
・事業によって広報媒体を分けているようですが、SNS では全ての事業を発信すると良いと思います。特に「玉串川さくらフェスティバル」は、大勢の人が訪れるので、積極的に地域独自の PR を行うことが大切です。
・SNS は媒体によって利用者層が大きく変わります。Instagram と同時に X を使用している若者も多いので、事業のターゲット（対象層）に沿って利用媒体を使い分けることもご検討ください。
〇事業の検証について
・事業の実施にあたっては、アンケートを実施するなどにより検証結果を共有し、次年度以降の事業改善に活用することをご検討ください。
〇以下、参考事例をご紹介いたします。
・まちづくり協議会と高等学校との連携について
高校生がまちづくり協議会などの地域コミュニティへ参画する事例として、兵庫県宝塚市の高司小学校区まちづくり協議会で活動する県立伊丹西高校の取り組みがあります（2023 年 8 月から）。 最初はそうめん流しやスポーツイベントの運営補助といった気軽な参加から始め、徐々に文化発表会の司会進行や子ども向けレクリエーションの企画・運営へとステップアップしています。そして、 地域の大人たちと世代を超えた交流を重ねる中で、生徒の主体的な学びや地域貢献への意識が高まり、学校側もこれを正式な探究学習の授業として組み込んでいます。現在では、高校生が参加することでイベントが活性化し、小学生から保護者、高齢者まで地域のつながりが広がっています。

別紙

＊参考：
https://www.city.takarazuka.hyogo.jp/1060685/1060715/1061674/1059201/1061451.html

・若年層へ向けてインスタグラムなどを活用し、まちづくり協議会などコミュニティ参画を促している事例について

岐阜県美濃加茂市の事例各地区のまちづくり協議会（伊深、三和、加茂野町など）が個別にInstagram アカウントを開設し、若者向けに地域の日常やイベント、移住情報を発信しています。ビジュアルを重視した投稿やストーリーズを活用し、若い世代が地域活動へ参加する心理的ハードルを下げています。

＊参考：https://www.instagram.com/p/DVLFih6gWFY/